

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

東広島市立東西条小学校 4教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	88	92	77	75	85	74	491	23	514
学級数	3	3	3	3	3	2	17	4	21

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：A)	B	B	A	A	推進	専科	A	専科	A	A	A	A	A
5年2組 (担任：B)	B	B	B	A	推進	専科	B	専科	B	B	B	B	B
5年3組 (担任：C)	C	C	C	推進	推進	専科	C	C	C	C	C	C	C

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：D)	E	E	D	D	推進	専科	D	専科	D	D	D	D	D
6年2組 (担任：E)	E	E	E	D	推進	専科	E	専科	E	E	E	E	E

4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<効果のあった取組>

① 【授業の質の向上】

- ・毎時間の学習指導案をデータ化し、児童の実態に応じて授業展開や発問、提示する資料などを修正し、指導方法の質的向上に努めた。
- ・理科の授業では、少人数による学習活動の時間を確保し、試行錯誤させる場面を取り入れることで、「知識及び技能」の資質・能力の向上を図った。
- ・教科担任制推進教員の授業を公開することで、初任者や若手教員の研鑽の場とできるようにした。



② 【多面的な児童理解】

- ・教科担任制により多くの教員が関わることで、児童を多面的にとらえることができるように情報交流を行うとともに、チームとして意識統一を図りながら児童への指導を行った。

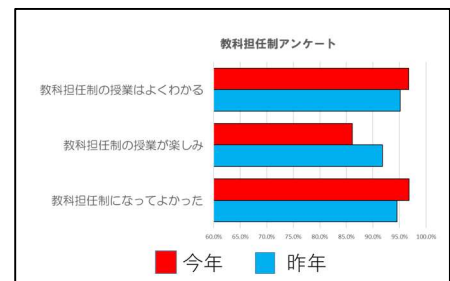
④ 【教師の負担軽減】

- ・教科担任推進教師や専科による授業により、担任および教務主任（担任兼務）の校務分掌や学級事務に充てる時間の確保を図った。
- ・担任による授業交換を行うことで、教材研究や授業準備にかかる時間の効率化を図った。

<成果>

① 【授業の質の向上】

- ・全国学力・学習状況調査の平均正答率は、国語が74%、算数が69%で、いずれも目標の県平均+5ポイントを達成できた。
- ・児童アンケートでは、「教科担任制の授業はよくわかる」と答えた児童が96.8%で昨年より2.3ポイント増加しており、非常に高い数値となっている。
- ・初任者だけでなく、若手や中堅教員についても教科担任制推進教員の授業参観を促すことで、教員の授業改善へとつなげることができた。



② 【多面的な児童理解】

- ・児童アンケートでは、「教科担任制になってよかった」と答えた児童が96.7%で、昨年より1.6ポイント増加しており、高い数値となっている。多くの教師による授業を受けることや担任以外の教師に自分の良さを認めてもらえることを肯定的に捉えている児童が多く見られた。
- ・多くの教員が関わることで、児童の課題や良さについて意見交換したり、共有したりすることができており、児童に対する指導においても一貫性をもって行うことができた。

④ 【教師の負担軽減】

- ・本校の第5・6学年担任は、校務分掌上中核となる者が多く、教科担任制により、校務や学級事務に係る時間を確保できたことで、負担軽減につながった。
- ・担任が教科を交換して授業を行ったことで、授業準備や教材研究にかかる時間を効率的に活用でき、個々の教員の負担軽減に効果的であった。

<課題>

① 【授業の質の向上】

- ・少人数での実験・観察やICT機器の活用は、児童のより深い思考や技能の向上、学力の定着に効果的であったため、年間を通した継続的な実施や、効率的な活用場面を検討する必要がある。
- ・教科指導の工夫改善や教材研究の成果を蓄積するだけにとどまらず、さらに多くの教員へ還元、共有を図る仕組みを作ることが必要である。
- ・課題解決学習の仕方を、一人一人の児童に習得させ、課題発見解決能力の向上を図る。



② 【小・中学校の円滑な接続】

- ・教科担任制を実施することで、児童が中学校における教科担任への移行をスムーズに行う素地が養われている。
- ・自校だけでなく中学校の教員とも連携を図り、小学校の授業参観を通して、授業における配慮や学習の進め方などについて意見交換を行い、効果的な接続につなげる必要がある。



<対策>

① 【授業の質の向上】

- ・少人数による学習において児童の「知識及び技能」を高めるため、活用場面や指導方法を検討した上で、学習単元を構成する。
- ・それぞれの教員の教科指導の工夫や改善案、技能をより多くの教員が活用、習得できるように、指導法の蓄積と共有を図るシステムをつくる。

③ 【小・中学校の円滑な接続】

中学校の教員とも連携を図り、小学校の授業を見てもらうことで、小学校での授業における配慮や学習の進め方などについて意見交換や共有を図り、小中学校の円滑な接続ができるよう努める。

